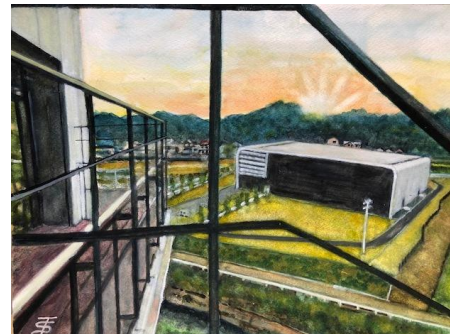


学長のコラム

平成最後の年頭の挨拶

昨年は、大雨、洪水、地震、台風と災害列島の一年でしたが、正月 3 日夕刻の地震には驚きましたね。今年も災害等のリスクを忘れるなどの警告だと思います。内外の政治情勢も、昨年はトランプ大統領のアメリカファースト政策に世界が翻弄された挙句、株価の大暴落で年が終わりました。今年も、世界の国々を協調・共生に導くリーダー不在の状況が本格化し、不安定な世界情勢が続くことを覚悟せねばなりません。今年の国内のイベントとしては、4 月 1 日の新元号発表、5 月 1 日の新天皇即位、7 月の参議員選挙、10 月の消費税増税と続きます。私どもとしては、これらの外部因子による負の影響を、積極的な施策によって回避しつつ、選ばれ続ける大学に発展させねばなりません。おりしも、私が学長に就任した 4 年前の秋から開始した教育改革は、皆様のご協力により、枠組みとしてはほぼ完成し、皆様の力で実施するばかりになっています。すなわち、皆様と一緒に定めた将来ビジョン「保健医療系大学として我が国のリーディング大学の一つとなる」の実現を、まず教育の分野からやり遂げるのが近道と考えます。そのために、三つのポリシーに加えて、第 4 のポリシーとしてアセスメントポリシーを定め、その年間実施計画を定めましたので、これを皆さんで実施していただきたい。そこでは、SG 担任制が重要な役割を果たしますので、先生方一人一人の再認識とご尽力が必要不可欠です。教育改革のコンテンツとしては、今年 4 月から、アカデミックスキル科目が共通教育として本格実施されますし、看護学科の新カリがスタートします。また、平成 32 年度からの実施に向けたリハビリテーション学科の新カリの検討が継続されます。その際、是非、OSCE (模擬患者等を活用した客観的臨床能力試験) を導入すべきだと思っています。1 年先行している医学検査学科の新カリも含めて、新カリの実施においては、鍵になるアクティブラーニングとルーブリック評価が教育の質を向上させることとなります。このように、教育内容、教育方法の改革により、「生きる」をひらく「かけがえのない一人に」なるよう学生諸君と共に成長しましょう。研究面のニュースとしては、化血研からの寄付講座や共同研究の話し合いが高濱副学長を窓口を開始されています。施設整備に関しても、3 月までに旧アリーナと図書館の改修の設計提案を受け、夏ごろから着工する予定です。4 月からは、新しい執行部体制が始まりますが、それまでの 3 か月も大変重要な時期です。優れた学生の選抜 (入試)、高い国家試験合格率、就職率 100% の継続などを構成員の総力を挙げて達成し、明るい気持ちで、卒業式、入学式を迎えましょう。ご家族との生活をしっかり築きつつ、大学においても皆様それぞれの役割を確実に果たしていただくことにより、目に見える形で大学が良くなっていきます。そのような輝かしい 1 年にするために、皆様のご活躍を期待しています。



1 月・2 月・3 月の主な行事予定

1/25 (金)	1/25~2/5 後期定期試験 (予備日含む)
2/ 4 (月)	一般入試 (本学・地方会場)
2/ 7 (木)	キャリア教育セミナー (九州内)
2/ 8 (金)	キャリア教育セミナー (九州外)
2/ 9 (土)	久しぶり、元気かい (会) !!
2/14 (木)	一般入試 合格発表
2/15 (金)	(医学検査学科) 臨地実習連絡会議
2/25 (月)	後期再試験 (~2/28)
3/ 1 (金)	(看護学科) 臨地実習合同会議
3/ 2 (土)	大学院一般選抜・社会人選抜 (Ⅱ期入試) 後援会役員会
3/ 4 (月)	センター利用 (後期日程) 入試
3/ 8 (金)	卒業式・修了式・卒業記念パーティー センター後期合格発表
3/13 (水)	银杏学園 理事会・評議員会
3/15 (金)	情報セキュリティ研修会 利益相反に関する研修会
3/20 (水)	学内研究助成・研究成果報告会
3/25 (月)	認定看護師教育課程・脳卒中リハビリテーション看護修了式
3/27 (水)	FD セミナー
3/29 (金)	辞令交付式 (退職、任期・期間満了)

国家試験日と合格発表日

国家試験名	試験日	合格発表日
臨床検査技師	2 月 20 日 (水)	3 月 25 日 (月)
理学、作業療法士	2 月 24 日 (日)	
言語聴覚士	2 月 16 日 (土)	3 月 26 日 (火)
看護師	2 月 17 日 (日)	3 月 22 日 (金)
保健師	2 月 15 日 (金)	
助産師	2 月 14 日 (木)	

平成30年学校法人银杏学園忘年会

平成30年12月21日金曜日、学園忘年会を執り行いました。こちらの行事が昨年度までの「学校法人银杏学園 杏友会」から「学校法人银杏学園」の運営へと変更となったことから、学園の理事・監事・評議員の皆様にもご出席いただき、教職員も合わせて総勢148名の方々で大変盛況な会となりました。(文責：総務課)



第2回 ピア・サポーター&プチ・サポーター養成講座

平成30年12月15日(土)プチ・サポーター&ピア・サポーター養成講座を開催し、プチ・サポーター30名、ピア・サポーター32名が参加しました。午前中は「学生生活に欠かせない用語や制度などの基礎知識」を確認したあと、「多様な学生を理解しよう」というテーマで、実際に修学支援を受けている学生さんの体験談を聴くほか、耳栓を使って難聴者の聞き取り辛さを体験しました。午後は「こころのバリアについて学ぼう」と、セクシュアルマイノリティの方たちの動画を鑑賞しながら、グループごとに意見の交換を行いました。障がいや多様性という概念について考え、理解を深める機会になったと思います。サポーターの皆さんが、この学びを今後の様々な活動に活かしてくれることを期待しています。

(文責：学生相談・修学サポートセンター)



学生と学長との意見交換会

平成31年1月10日(木)に「学生と学長との意見交換会」を開催しました。この意見交換会は、学生の声を直接聴くことにより、教育方法、教育環境、学生生活支援等の改善に役立てることを目的としています。

初めに崎元学長が、将来ビジョン、三つのポリシー、熊保大生の到達目標(コンピテンシー)、アセスメントポリシー、三つのポリシーを実現するためのアセスメントについて説明され、その後、4月に実施した「学修行動調査」の結果と回答を基に、各学科1~4年生(12名)と崎元学長、副学長、各学科・専攻長で活発な意見交換が行われました。

今後は、学生の皆さんから出された貴重なご意見等を、大学の教育改革や学生生活支援に活かしていきたいと思えます。(文責：企画課)



学園永年勤続者

学園永年勤続表彰者をご紹介します。

<学園永年勤続者>

- ◆20年 看護学科 准教授 大澤 早苗
- ◆10年 看護学科 教授 羽田野 花美
- 看護学科 准教授 荒尾 博美
- リハ学科 教授 飯山 準一
- リハ学科 准教授 松原 誠仁
- 共通教育 教授 竹永 和典
- 共通教育 技能嘱託 森 友子
- 企画課 課員 東 亜夜



地域貢献事業(地域看護研究会)

~これならできる! 動機づけ面接~

平成30年12月16日(日)、キャンパステラスにて、地域看護研究会を開催しました。昨年に引き続き、NPO法人つなぐ代表理事の倉本剛史先生を講師にお招きし、動機づけ面接について学びを深めました。本学の学生・卒業生・教職員をはじめ、県内で働く保健師・看護師等、36名の参加があり、お互いに交流しながら、普段の対人コミュニケーションを振り返る良い機会になりました。

今回の学びを日々の生活や業務等に役立てることができればと思います。(文責：看護学科 荒木善光)



チャレンジ熊保大! 一般入試対策講座

平成30年12月9日(日)にチャレンジ熊保大! 一般入試対策講座を開催し、294名の高校生、保護者様にご参加いただきました。

当日は熊本の大手予備校「壺溪塾」の講師陣にご協力いただき、10時から16時45分まで直前期の受験勉強の指針を教授いただきました。また、保護者様のための入試説明会や大学見学ツアーも実施し、本学に対するご理解を深めていただけたと思います。ご支援いただきました教職員の皆様、大変お疲れ様でした。(文責：広報課)



私の秘話ヒストリー

今回は医学検査学科の野中 喜久 准教授に投稿していただきました。

私はこれまでに死ぬまでにやりたいことを2つ叶えた。ひとつは富士登山である。2012年の夏、友人と富士登山ツアーに参加した。登頂成功率90%以上といわれる安心安全の初心者向けである。全国各地から集まった参加者は、上は80才、下は小学生とバラエティーに富んだメンバーであった。本格的な山登りは初めてで、何もかもが新鮮であった。ザックや登山スパッツ、ヘッドランプと冒険スタイルにワクワクであった。どうにか登頂することが出来、ここには2度と来ないと欲張ってお鉢巡りまで行った。帰りの温泉で自分の汚れ具合に衝撃を受けたのを覚えている。

もうひとつはフルマラソン完走である。忘れもしない2014年の熊本城マラソンである。それまで毎年、冷やかし程度に応募していたが、なんとその年は選ばれてしまった。悩んだ挙句、練習を開始した。シューズを購入し、初心者のためのマラソン教室に通った。そこではフォームや体力作り、ストレッチだけでなく、給水や食事の取り方、レース中のトイレの行き方など細部まで学んだ。知らない人ばかりだったが、みな目標が同じの同志である。自然と言葉をかける間柄となった(しかし、レース当日その人たちに会うことはなく、無事完走したかはわからない)。私は、初心者としては上出来の5時間30分をきる好記録であった。レース後の身体はボロボロではあったが、今となっては楽しい思い出しか残っていない。しかし、もう走ることはないだろう。



<<富士山の御来光>>